

歯髄細胞使い歯槽骨を再生

(1面関連)

これまで歯槽骨を増やすため

には、腰の腸骨などから自家骨移植するか、セラミックなどの人工骨を使用してきたが、侵襲の大きさや感染のリスクなどの問題があった。また、骨髄細胞を利用した歯槽骨再生もすでに実用化されているものの、骨髄採取が歯科施設で困難な上、患者の身体的負担は少なくない。シバタ再生医療センター(愛知県岡崎市、安川安光院長)が、再生医療推進機構(本社・東京都中央区、大友宏一代表)の協力を得て、国内で初めて成功

した歯髄細胞を用いた歯槽骨再生は、非侵襲的で高い再生能力を

がかる。

シバタ再生医療センターは、歯

歯科の積極的な関与に期待

有する治療材料として歯髄の活用を促すとともに、歯科医師が積極的に関われる分野として期待

槽骨が萎縮しておりインプラント埋入が困難で、歯髄細胞バンクに細胞を保管している患者(51歳

男性)に対して歯髄細胞を移植。歯槽骨再生後にインプラントを埋入した。

インプラント手術後、約6カ月の経過観察を経て、日本大学歯学部解剖学第II講座准教授の本田雅規氏は「画像診断において歯髄細胞の移植部位に不透過像を確認。さらに、インプラント埋入部から採取した骨を組織学的に観察すると骨細胞を認める層板骨があった」と画像診断学・組織学的に評価。総合所見により治療が成功したと結論付けた。

iPS細胞やSTAP細胞などの万能細胞化技術によって、さらに歯髄細胞の治療分野の拡大が期待されている。